

HOME > 研究活動 > 重水素実験について > 重水素実験安全評価委員会の報告と審議概要について > 核融合科学研究所重水素実験安全評価委員会<第22回>

核融合科学研究所重水素実験安全評価委員会<第22回>

重水素実験安全評価委員会（第22回）が、令和4年6月3日（金）に核融合科学研究所において開催されました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン会議システムを併用して、午後1時30分から午後3時50分まで行われました。委員会には、10名の委員（現地4名、オンライン6名）と、オブザーバーとして関係自治体から4名（現地3名、オンライン1名）の方が出席されました。本委員会は公開されており、今回は3名の方が傍聴され、報道関係1社が取材に来られました。

委員会では、片山幸士委員長（人間環境大学名誉教授）の進行のもと、議事に従って研究所から、「大型ヘリカル装置（LHD）における第5年次の重水素実験の実施結果等について」では、2021年度（第5年次の重水素実験）の研究成果、2022年度の実験スケジュール（予定）、及び放射線等の管理状況などの報告、また、「大型ヘリカル装置における重水素実験終了後の予定について」では、重水素実験終了後のLHDの放射線管理の考え方などの報告がありました。

次いで、「LHD重水素実験放射線管理年報（2021年4月1日～2022年3月31日）（案）について」、内容の説明があり、了承されました。

委員からは、「LHDによる重水素実験の成果が核融合研究にどのような共通認識を持って今後どのように役立つのか」、「安全対策や地域との取組に関するノウハウ等の共通財産について、国際的にどのような役割を果たすことになるのか」などの質疑等があり、活発な議論が行われました。

また、閉会にあたり、委員長から、重水素実験終了後の予定に関して、現在の安全管理体制をどのようにするのか、今後、委員会で議論していく必要があるとの発言がありました。



報告事項等

1. 大型ヘリカル装置（LHD）における第5年次の重水素実験の実施結果等について
2. 大型ヘリカル装置における重水素実験終了後の予定について

審議事項等

1. LHD重水素実験放射線管理年報（2021年4月1日～2022年3月31日）（案）について

配付資料

核融合科学研究所重水素実験安全評価委員会（第22回）議事次第

資料1：核融合科学研究所重水素実験安全評価委員会委員名簿

資料2：核融合科学研究所重水素実験安全評価委員会設置規則

資料3：核融合科学研究所重水素実験安全評価委員会の運営に関する申合せ

資料4：大型ヘリカル装置（LHD）における第5年次の重水素実験の実施結果等について

資料5：大型ヘリカル装置における重水素実験終了後の予定について

資料6：LHD重水素実験放射線管理年報（2021年4月1日～2022年3月31日）（案）

◆ LHD重水素実験放射線管理年報（2021年4月1日～2022年3月31日）

◆ 当日の会議録は確定後、公開します。

核融合科学研究所重水素実験安全評価委員会委員名簿

令和4年6月3日現在

【50音順】

いがらし みちこ 五十嵐 道子	フリージャーナリスト	
うえだ しんじ 植田 真司	公益財団法人環境科学技術研究所 環境影響研究部 部長	
かたやま ゆきお 片山 幸士	人間環境大学 名誉教授	[委員長]
きさお まみこ 笹尾 眞實子	東北大学 名誉教授	
たまき ともふみ 玉樹 智文	元 島根大学法文学部 准教授 石拾地区核融合科学研究所環境保全対策委員会 委員	
ふくわ のぶお 福和 伸夫	名古屋大学 名誉教授	
ふじ まさよし 藤 正督	名古屋工業大学先進セラミックス研究センター 教授	
まなべ たかゆき 眞部 孝幸	中京学院大学看護学部 学部長補佐・教授 大阪大学大学院連合小児発達学研究科 招へい教授	
ももしま のりゆき 百島 則幸	九州環境管理協会 理事長 九州大学 名誉教授	[議長代理]
もりした なおき 森下 直貴	一般社団法人老成学研究所 所長 京都府立医科大学 客員教授 浜松医科大学 名誉教授	
わたなべ かつし 渡辺 勝士	元 土岐市立泉西小学校 教頭	

[オフザーバー]

土岐市、多治見市、瑞浪市、岐阜県の担当部長

2022年(令和4年)6月4日 土曜日

19 県内総合 ☆

重水素実験の 研究成果報告

核融研安全評価委員会

土岐市下石町の核融合科学研究所は3日、第22回重水素実験安全評価委員会を同所で開いた。2022年度をもって終了となる大型ヘリカル装置(LHD)での重水素実験について、これ

までの研究成果や放射線の監視状況などを報告した。

国の大規模学術フロンティア促進事業の予算措置が終わることを受け、重水素実験は今年10月から来年1月までの実験を最後に終了する予定。核融研はLHDを引き続き、核融合科学を中心とした学術研究の基盤として使用することを検討、協議しているという。なお、重水素実験終了後は、新たな中性子やトリチウムの発生はなくなる。

委員会は有識者ら11人でつくり、この日はオンラインも含めて10人が出席。重水素実験の終了後を見据え、人間環境大名誉教授の片山幸士委員長は「委員会が研究所に求めている厳しい安全管理体制をどうするか、今後議論していく必要がある」と見解を述べた。

(織部俊太郎)